

セッション1

社会に求められる薬剤師としての力

1

1

実務実習を終え、就職を控えた 今の自分が描く理想の薬剤師像

いくつかの意見をピックアップ

後日、学生の意見を共有させていただきますので、各Pの責任者のご判断でピックアップをお願いします。

2

2

これからの作業

- 「社会に求められる薬剤師としての力」とは何か？について自由に議論してください。相反する意見があれば併記してください。
- フロダクトは箇条書きでも図表でもなんでも結構です。

3

3

Zoomミーティングでの注意

自分が発言中以外は基本ミュートで
カメラはオンで（一時離席時などはオフ）

通信障害で退出してしまった場合は、再度入室し
なおしてください。

意見を言うときはミュート解除でしゃべっても
らってOKですが、反応ボタンで手をあげてもOK
です。
チャットも自由に使ってください。

4

4

ブレイクアウト時の注意

通信障害で退出してしまった場合は
P会場から再入室してブレイクアウトルームへ

ブレイクアウトルームからP会場に戻るときは
「ブレイクアウトルームから退出」を選択

「ミーティングから退出」を選ばないように

5

5

発表の進め方

発表者の方は画面共有をお願いします
ポインタを使いたい場合は、スライド
ショーにして、Ctrlを押しながらマウスの
左ボタンを押すと赤い印が出てきます
質問のあるときは、ミュートを解除して、
所属と名前を言ってから発言してください。

6

6

社会に求められる薬剤師としての力 ○グループ

- 箇条書きで作成してください
- . . .
- . . .
- . . .
- . . .

7

7

このセッションの作業時間は、

60分

発表 3分
総合討論 8分

発表順 A → B → C → D

8

8

セッション1 I グループ A 班

セッション1では、「社会に求められる薬剤師としての力」をテーマにディスカッションを行った。

【議論の経緯】

まず、求められる薬剤師の力について、大枠として「話しやすさ」と「知識」の2点が挙げられた。そこから「話しやすさ」について具体的に、医療従事者や患者とのコミュニケーション能力や、人と人を繋ぐ架橋としての親しみやすさが求められると考えた。

続いて、「知識」について具体的に、薬の知識はもちろん、薬局やドラッグストアでは日常生活や保険の知識なども求められるという意見が出た。また、今後は幅広い知識を持ったジェネラリストであり、得意分野を持つスペシャリストである薬剤師が求められると考えた。

ここで、小休憩としてグループメンバーの就職先について話した。病院、ドラッグストア、製薬企業、大学院への進学と、それぞれが違う道へ進むことが分かった。

次に、COVID-19のような緊急時に求められる薬剤師としての力について議論した。一番は、最低限の医療を継続させることであると考えた。そのために、医療供給が止まった場合でも代替薬の提案を行う力、情報収集能力や冷静な状況判断力が求められると考えた。そこから、薬局ではCOVID-19に関する情報で不安を抱える患者が多くいるという意見が出たため、薬剤師として根拠に基づく情報を選択し、不安にさせないように伝える力が必要だと考えた。そして、正しい情報収集の仕方として、信用のできる先生や知人に聞くのが確実であるという意見や、原著論文、書籍等で確認するという意見が挙がった。

最後に、第三者からの薬剤師の見え方が重要であるという点から、情報発信能力が求められると考えた。薬剤師は薬局、病院、製薬企業、大学、公務員など様々な活躍の場があり、地域に貢献しているという意見が出た。しかし、薬剤師による健康サポートや地域教室の開催は、本当に住民に求められているのか、それを求める人はすでに積極的に薬剤師に相談しているのではないかという意見が挙がった。薬剤師に求められることは、普段から病院や薬局等に行かない健康な人に“薬剤師”という存在を知ってもらい、地域でのサポートをしてほしいと思ってもらうことであると考えた。

また、地域を支えるという観点から災害時医療の話題になり、DMATに所属する薬剤師としての力について議論した。災害時では特に代替薬の提案が重要であり、患者が普段服用している薬の情報を収集し、医師へ伝える能力が求められると考えた。そして、患者の薬に関する情報としてお薬手帳が有用であるという意見が出たが、薬局の特徴や人によって管理の仕方が異なっているのが現状であり、お薬手帳の使い方や有用性についての情報発信をしていく必要があると考えた。

1Aグループ

社会に求められる薬剤師としての力

- 話しやすい
- 知識（情報収集と情報発信）

1

1Aグループ

1Aグループ

- 話しやすい
 - ・ 医療従事者、患者と話しやすい
 - ・ 医療従事者との架橋
- 知識
 - ・ 薬剤師としての知識で医療従事者とのコミュニケーションが円滑に（病院）
 - ・ 医師は専門分野の薬の知識はあるが、専門分野外は薬剤師に相談
 - ・ 日常生活にかかわる知識
 - ・ 介護保険だったり、薬以外にかかわる知識
 - ・ ジェネラリストorスペシャリスト
共存
ジェネラリストであり、スペシャリスト

2

1Aグループ

・ COVID-19

- 最低限の医療を継続
- 医療供給が止まった場合
- 代替薬の提案
- 中国、漢方供給止まる
- 情報収集
- 冷静な状況判断
- 正しい情報の精査
- エビデンスがあるものを選択
- 患者を不安にさせない
- 伝え方

3

1Aグループ

・ 情報収集の仕方

- 聞く（信用のできる先生や知人）
- 論文
- 書籍

4

1Aグループ

・ 第三者からの薬剤師の見え方

- “薬剤師”を情報発信
- 薬局、病院、製薬企業、大学、公務員、
地域住民が求めている？
- 薬を求めている人は積極的に薬剤師に相談
- DMAT（医師、看護師、薬剤師etc）
- 代替薬の提案
- お薬手帳から得られる情報を医師へ
- 薬局の特徴によって管理の仕方がことなる？

5

セッション1 I グループ B 班

セッション1では「社会に求められる薬剤師としての力」とは何なのかについて議論し、プロダクトを作成した。

【議論の経緯】

まず、「実務実習で感じた薬剤師に求められること」、「実際に見た薬剤師が社会に貢献している場面」、「患者・市民目線で考える薬剤師に対する要望」という視点から、個人の意見を出し合った。出された意見を整理し、薬剤師が関わる体制に求められることと、薬剤師個人に対して求められることの2つに分類した。それぞれの実体験に基づく意見を組み込むことで、より説得力のある文章にまとめることができた。

体制の面では、現在の大きな社会問題である高齢化に対応する必要があるという意見が多く出され、高齢化社会の中で薬剤師に求められることについて討議した。高齢化に伴い慢性疾患を患う患者が増えていくことが予想され、それに対して病院、薬局それぞれにできることを話し合った。その中で、他職種で連携することでより充実した医療を提供することができるという意見が挙げられた。

薬剤師個人に求められる力としては、対物業務から対人業務への変化に合わせてよりコミュニケーション能力が求められるという意見が多く出された。また、今後処方代行など医師と同等の業務も増えていくと予想され、アメリカの薬剤師のように高度な知識と処方内容に責任を持つ覚悟が必要という意見が出された。一方で、薬や健康のことについて気軽に相談することができる、患者や地域住民にとって身近な存在になるなど親しみやすさも求められるのではないかという意見も出された。

以上のような議論を行い、「体制を整えること」、「自己研鑽を積むこと」、「身近な存在であること」大きくこの3つの力が求められ、このサイクルを回していくことが薬剤師に求められることではないかという意見にまとまった。

1Bグループ

社会に求められる薬剤師としての力

- ◆ 体制として
 - ・ 地域に密着できる（高齢化社会）
 - ・ 健康サポート薬局（血圧のサポート等）
 - ・ セルフメディケーション ④医療費の削減
 - ・ 薬業連携（退院後もケア）
 - ・ 病院でも在宅医療へ
 - ・ 多職種連携（薬局での栄養士さん）
 - ・ 災害時に薬の専門家として参加
- ◆ 個人として
 - ・ コミュニケーション能力（多職種連携、患者さん）
 - ・ 情報を取り扱う力
 - ・ 知識量、応用力
 - ・ 薬学的観点だけでなく患者さん全体を見る能力（多職種の目線）
 - ・ 責任を共有する覚悟（PBPBM）

6

1Bグループ

社会に求められる薬剤師としての力

7

1Bグループ

個人

- ・ 地域に密着できる（高齢化が進んでいる）
- ・ 多職種連携（他の医療従事者に薬学的観点から情報共有）
- ・ 患者さんが求める情報（会話の中から必要な情報）
- ・ 責任を共有する覚悟
- ・ 病院でも在宅医療に参画（慢性疾患の患者さんが多いため）
- ・ 災害時に薬の専門家として（知識量、応用力：限られた薬）
- ・ コミュニケーション能力（薬剤師だからこそきかせること）
- ・ 身近になるといい

体制

- ・ 健康サポート薬局（血圧を測る習慣をつける：栄養士さんが日常でのアドバイス多職種連携）
- ・ 薬学的観点だけでなく患者さん全体を多職種と同じ目線も養う
- ・ 薬剤師をもっとしてもらおう（なんで薬剤師に検査値や病気のことで...?）
- ・ 薬業連携（患者さん情報提供：薬局にないかもしれない薬とかはやるけど・・・）
- ・ 退院後もケアできる（地域連携）
- ・ セルフメディケーション（処方箋だけでなくOTCにも）
- ・ 24時間対応（薬局だけでなく病院も）

8

セッション1 Iグループ C班

セッション1では、社会に求められる薬剤師としての力について、それぞれの意見を発表した後、意見が多く上がった情報を正しく収集する能力、得た知識を発信する能力の2点について話し合った。それを踏まえて、私たちが社会に対して貢献できることについても話し合いを行った。

〈情報を正しく収集する能力〉

- ・ 情報に偏りがないようにする
- ・ エビデンスがある情報を主体的に収集する

〈得た知識を発信する能力〉

- ・ 患者さんの背景や意見を尊重した情報提供
- ・ 医療従事者や患者に対して分かりやすい表現で説明
- ・ 他の医療従事者との円滑なコミュニケーション
- ・ ニーズに合わせた情報提供

〈私たちが社会に対して貢献できること〉

- ・ 環境や公衆衛生に貢献
- ・ 研究者として新薬を開発
- ・ 健康全般に関するアドバイス
- ・ 健康食品やサプリメントに関する知識の提供
- ・ 食べ物と薬との組み合わせの提供
- ・ 視覚的情報を効果的に使う

上記の意見が上がった。情報を正しく収集するには、エビデンスのある情報を偏りのないように集め、発信する相手に合わせた情報提供が必要になると考えた。また、将来薬剤師として活躍する場により社会に対して貢献できる内容は異なるが、6年間で学んだことを現場で生かしていきたいと思う。

”

社会に求められる薬剤師としての力

- **薬に関する基礎知識**（副作用など）
 1. **知識を正しく収集する能力**
 - 偏った情報にならないようにする
 - メディアから受動的に受け取るだけでなく、エビデンスがある情報（厚生労働省のHPやインタビューフォームなど、臨床現場から発信された研究）を主体的に収集する
 2. **得た知識を発信する能力**
 - 患者さんの背景や意見を尊重し、重要な情報を提供できる能力
 - 他の医療従事者との円滑なコミュニケーション
 - 職場の人と話し合い、掲示物
 - 研究で得た情報→患者さんへ、患者さんから得た情報→研究へ
 - 他者にとってわかりやすい表現
 - 自分が常識だと思っていることが、他の職種・患者さんにとって常識とは限らない
 - 相手が何を常識としているのかも知っておく
 - ニーズに合わせた情報

9

私たちが社会に対して貢献できること

- ・ 学校薬剤師や公務員のように、環境や公衆衛生の整備に貢献できる
- ・ 新薬・適応外使用を開発・発見する
- ・ 基礎研究に対する理解や知識
- ・ 研究者としての力
- ・ 薬学部で学んだ薬剤師として開発等の研究職に貢献できる
- ・ 健康全般に関するアドバイス
- ・ 健康食品やサプリメントに関する知識
- ・ 食べ物と薬との組み合わせ→講演会などで情報を提供
- ・ 視覚的情報を効果的に使う
- ・ 薬局で得たニーズを他のフィールドで活躍する人へフィードバック

10

セッション1 Iグループ D班

1D班では、患者さん、地域の方、医療従事者などに正確な薬学的情報を分かりやすく伝えることが求められると考えた。そのためには、まず新しい情報や豊富な知識を身につけることが大前提である。これらに関わる力を「インプットする力」に分類した。その上で、正しく情報を伝えていくことや情報を伝える機会を増やすことが必要となるため、これらに関わる力を「アウトプットする力」に分類した。以下に議論のプロダクト及び詳細を述べる。

<インプットする力>

①積極性

新しい情報や豊富な知識を身につけようとする積極性が必要である。外部の先生による勉強会やメーカーによる勉強会に参加する積極性はもちろんのこと、病院内や薬局内での症例報告会や専門資格を有する薬剤師による勉強会を自分たちで企画する積極性も重要であると考えた。また、薬剤師にできる活動の幅を広げるためにも知識を身につけなければならない。一例として、実務実習中、血糖値を患者自身が測定できるブースを設けた勉強会を開催していた薬局があったが、開催のためには薬剤師自身が血糖値の測定方法や血糖値に関する知識を大前提として身につけておく必要がある。

②偏見を無くす

情報を得ようとする時に、ある薬に対する個人的な思い込み・感情・イメージがあると、自分にとって都合の良い情報のみを選択してしまう可能性がある。そのため、素直にフェアな目線で薬剤を見て、メリット・デメリットを冷静に判断する力が求められる。例えば、メーカーが言っていたメリットを鵜呑みにしてしまわず、批判的な見方を持つことが必要である。

<アウトプットする力>

①発信力

正確な情報を正確に伝える力、及び、その人の必要としている情報をその人の理解度に合わせて分かりやすく伝える力が必要である。その際に、メリットだけではなくデメリットも上手に伝えることが大切である。

②能動的に動く力

薬剤師は、地域の方から「薬を渡してくれる人」としか思われていない可能性があるため、薬局で待っているだけでなく薬剤師側から行動を起こす必要がある。具体的には、地域の方を大勢集めたお薬や予防に関する勉強会を兼ねたイベントの開催である。実務実習中に、薬局で夏バテ予防の料理を紹介するイベントを体験した学生もいた。

③教育する力、下の世代を育てる力

社会に求められる薬剤師としての力を下の世代に引き継ぐことで、一時的なものではなく未来に渡って継続していくことが重要であると考えた。

<信頼関係>

インプットする力とアウトプットする力を身につける上での基盤であり目的とも言えるのは、患者さん、地域の方、医療従事者、メーカーとの信頼関係である。例えば、メーカーとの信頼関係を築くことは、勉強会をたくさん開催してもらえることに繋がる。薬局等でイベントを開催することは、地域の方との信頼関係を築くきっかけとなる。豊富な知識を持ち分かりやすく伝えられる能力は、患者さん、地域の方、医療従事者からの信頼を得る第一歩になる。このようにして信頼関係を築けた先に、「薬剤師が言うなら信じてみよう」「薬剤師に相談してみよう」と思ってもらえるのではないかと考えた。よって、正しい情報が活かされることで、地域の方の健康維持や患者さんの安全な薬物治療に貢献できると考える。

社会に求められる薬剤師としての力

インプットする力

- ・積極性
勉強会に行き、
自分で出来ることを増やす、学ぶ。
(病院内・薬局内での症例報告)

- 例) 患者自身に血糖を
測定してもらおうフェースのある勉強会

- ・偏見をなくす
(思い込み、自分にとって都合の良い
情報のみを得てしまう)
→冷静な判断をできるように…
フェアな目線で薬剤を見る!

アウトプットする力

- ・発信力
正確な情報を正確に伝える
(メリット、デメリット両方)
情報の「分かりやすさ」
(その人に合った情報提供)

- ・能動的に動く事
「薬を渡してくれるヒト」としか
思われていない…?
↓
薬局主催、大勢の人を集める企画

- ・教育する力、下の世代を育てる力

信頼関係

患者・医療従事者
・メーカー

セッション1 IIグループ A班

セッション1では、「理想の薬剤師像」に関する事前アンケートを踏まえ、「社会に求められる薬剤師としての力」とは何か、議論を行った。

【議論の経緯】

始めに自由に思いついた意見を述べた。その意見を順に示す。

- ・副作用などのリスクに関して、患者さんや他の医療従事者では気づかない薬に関する部分を見落とさない力。
- ・調剤などは当たり前でできる上で、生活習慣など薬物治療以前の部分で患者さんと関わっていくためのOTCや健康食品に対する知識力。
- ・ドラッグストア・調剤薬局においては、薬剤師の方が相談しやすい方もいる。よって薬剤師側の意見がAIと類似した独り善がりなものとならないような共感力が必要となる。
- ・患者さんや他の医療従事者に対して、それぞれの立場に立って話すことのできる力。自分の考えを押しつけず、共感しつつ自分の意見を伝え、治療に活かしていく。
- ・不便を感じる、また改善すべき点は積極的に行動に移す力。積極性は勉強面においても求められる。
- ・知識はもちろんのこと、職場内の雰囲気は患者さんに伝わってしまうため、日頃から団結力を深め情報共有を行う。

これらの意見は私たち薬学生が授業で聴いた、実習で感じた「現在」の事に偏っているとタスクフォースから指摘があり、災害やオンライン服薬指導、国内未承認薬の取り扱いといった「将来」の事に目を向け議論することになった。

・国内未承認薬

どんな薬なのか、安全性は高いのか、詳細なことがわからず患者さんは不安な気持ちである。薬の情報を収集しメリットだけでなくデメリットも踏まえた上で伝えるために、MRなどとの意見の共有が必要となる。

・災害

コロナウイルス感染症のような緊急事態、災害時には臨機応変に対応する力が求められる。そのためにも必要な薬の準備や知識を得ることなど、災害時に限らず通常業務から正確に行う事が必要となる。感染症は拡大状況や医薬品について、国内に留まらず海外にも目を向けるべきである。

今回の感染症に関して、ニュースでマスク・ガウン不足が取り上げられた。これらの医療物資についても供給管理は薬剤師の役割に入ると考える。流通の予測は難しいが、これまでの感染症の経験から対策を立てることができる。不足しがちな物資のピックアップ、医療現場でのネットワークの構築等、緊急時に向けた対策を多職種と共に行い、また社会に意見する場を作る。

・オンライン服薬指導

遠くに住んでいる高齢者の使用が主に予想されるが、高齢者は機械を苦手とする方が多い。使用方法の説明も薬剤師が対応していくべきである。

以上のことをまとめ、これまでの経験や国からの発信に対する準備が必要であることを確認した。

【プロダクトのまとめ】

上記の意見から、大きな枠組みとして「コミュニケーション能力」と「準備力」が求められるとの結論に至った。「コミュニケーション能力」では、議論前半での意見をまとめ、見落とさない力、つまり変化に気づく力や、薬や健康に対する知識力、患者さんへの共感力、自ら積極的に動くことができる行動力、臨機応変に対処する対応力が挙げられた。議論後半の意見を集約した「準備力」では、緊急時の物資供給に関する医療現場のネットワークやマニュアルを作成し日頃から情報共有すること、オンライン服薬指導に関し薬剤師が機械の使用方法などを説明できるようにすることが挙げられた。

2Aグループ

社会に求められる薬剤師としての力

■ コミュニケーション能力

- 変化に気づく力
- 薬や健康に対する知識
- 共感力
- 行動力
- 対応力

■ 準備力

- 災害、緊急事態時の医療現場のネットワークづくり
- オンライン診療

1

2Aグループ

社会に求められる薬剤師としての力

- 見落とさない力→変化に気づく力
- OTCや健康食品など薬物治療以前のところで患者さんと接することができる
- 共感力（患者さんやお客さんとの問題意識をきちんと共有することができる。AIや機械にはできない部分）
- 患者さんや他の医療従事者の立場に立って話をすることができる。行動力（自分から動くことができる、勉強や環境など）
- 職場内での情報共有、団結力（職場の雰囲気は患者さんにも伝わってしまう）
- 広く使われてはいない薬を使う際に効果や副作用を説明するために、MRなどと情報共有して患者さんに安心してもらう

2

2Aグループ

社会に求められる薬剤師としての力

- 災害時だからと言うわけではなく通常業務からきちんと行っていくことが必要。
- 今回のような緊急事態の際、医療物資不足等に対する対策を多職種含め社会に意見する場を作る。医療現場のネットワーク。
- オンライン診療等機械を使う機会が増えていくと予想されるため、機械の扱いに強い
- この先必要であると思われること（オンライン診療、新型の感染症対策）に対して準備していく。

3

セッション1 IIグループ B班

第1ラウンドではテーマで各自の思うことを自由に討論し、以下の5点が求められる力になると考えた。

- ① 疑問を持って勉強：日ごろから疑問をもって業務に取り組み、わからないことを解決する。情報収集後は、情報の正確性を吟味する。
- ② 現場で使える知識：疾患に特化したような専門的な内容から生活習慣病等にわたる幅広い知識を身に付ける。また、学校薬剤師やかかりつけ薬剤師のような保険活動に積極的に取り組む。
- ③ 説得できるコミュニケーション：各医療従事者と対等な立場で議論する上で必要である。また、患者さんとの信頼関係を構築するために、一人ひとりに合った服薬指導を行う上でも必要である。コミュニケーションを行う環境を整え、論理的に話す力を身に付ける。
- ④ 問題解決能力：問題を発見し、解決する能力が必要である。日常業務や臨床研究などに活かす。
- ⑤ 管理能力：定期的な医薬品の管理といった調剤業務に対して迅速かつ正確に取り込む。

【まとめ】薬剤師は、患者さんへ医療を提供するために影ながら支える「縁の下の力持ち」であることが求められると考えた。

社会に求められる薬剤師としての力

- 疑問を持って勉強
- 現場で使える知識
- 説得できるコミュニケーション能力
- 問題解決できる力
- コミュニケーションを取れる場所の設置
- 医療現場全体の管理能力

セッション1 IIグループ C班

セッション1では、「社会に求められる薬剤師の力」というテーマをもとに、実務実習を終え、就活を控えた今の自分が描く理想の薬剤師像についてSGDを行った。

【経緯】

議論を進めていく上で、まず薬剤師として必要とされている力とはどのようなものがあるのか、各自で考えてもらい意見を募った。募った意見に対して、大まかに必要とされる力を分類した後、内容を突き詰めて行った。以下にその内容を示す。

■ 冷静さ・しなやかさ

(1) 患者が最初に来るのは病院において必要である。

→周りの診療所と比較して、病院は特定の患者ではなく様々な患者が訪れるだけでなく、院内感染の可能性が出てきた場合には、その対策を早急に行わないといけないなど状況がころころと変わるため、冷静さ・しなやかさが必要である。

(2) 薬局も必要である。

→コロナによる感染症が問題となっている中で、イソジンによるうがいやコロナによる感染症を予防できると報道がある。この報道により、多くの消費者がドラッグストアや薬局にイソジンを求めて訪れた。薬剤師は冷静に情報を精査し、消費者に対して正確情報提供を行っていかなければならない。

(3) 患者の様子を把握しながら説明を加えることが必要である

→患者への説明を行う際に、一方的に話すのではなく、患者の理解が得られているか表情を確認することや今患者がどのような心境であるか相手の立場になって冷静に考えていく必要がある。

■ 患者の健康・生活面の把握

(1) 咄嗟の判断力が必要である

→薬剤師が患者の生活面や健康面を提案する際に、咄嗟に必要な情報を提供するための判断力が必要である(身につけるには現場で働き、経験を積み重ねる必要があると思われる)。

■ コミュニケーション能力(話し方等、対象者だけでなく)

(1) 人間関係の構築

→薬剤師は待っているのではなく、積極的に自分から顔を見せに行くことで、自ら患者に関わっていく必要がある。

(2) 薬剤師としての考えを伝える

→自らの考えを医師や看護師、その他医療従事者に伝えることが大切である。

(3) 聞き手側と話し手側

→患者においては共感の姿勢で話し合いを進め、医療従事者に対して理論立てて話し合いを行う必要がある

■医療面だけでなく周囲の医療従事者などの精神面のケア

(1) 良い職場関係の構築が必要

→職場環境は仕事に対するモチベーションにつながるだけでなく、質の良い医療を提供する上で、重要である。

(2) 各医療従事者との架け橋になるような存在となる

→チーム医療が重要視されている中で、薬剤師は医師や看護師、その他の医療従事者をつなぐための架け橋へとすることができるのではないかな。

(3) 様々な面での薬剤師の活躍

→薬剤師は患者への薬剤の提供だけでなく、現在では在宅医療や健康サポートなど多種多様な面での活躍が出来ているため、今後も新しい面での活躍が期待できる。

(4) 教育における言葉のかけ方

→ミスが起こった際に、単に怒るのではなく、ミスの原因を追究することが必要である。また、感情的に怒ることで、些細なミスや困ったことがあるときに話しかけ辛くなる。その結果、些細なミスが大きなミスに直結する可能性が出てくるため、冷静になり話しを聞いてあげることが大切である。

■非薬学的情報と薬学的情報の架け橋

(1) 情報の精査と情報提供(コロナ感染症におけるイソジン問題)

→コロナの感染予防策としてイソジンが有効であると情報が報道されると、ドラッグストアや薬局にイソジンを求めて消費者が殺到し、混乱が起きた。その際に、薬剤師は情報の精査を行い、イソジンのうがい予防だけが感染症予防につながることはないことを消費者に伝えることが大切である。

(2) アフターピル

→薬剤師や医療従事者でなければ、アフターピルについて知らない人がいるので、妊娠の不安などで来院された方に適切な情報提供を教える。

【総括】

今後、薬剤師として活躍するためには日常的に情報を収集し、知識を身につけていく力が必要であると思われる。また、医療従事者や患者との協力関係を築くために、コミュニケーション能力や適切な情報を収集する力など、様々な力を身につけることで、良質な医療を提供することへとつながると考えられる。

【謝辞】

今回の議論を行う上で、丁寧にご指導いただいたタスクフォースの先生方、関係者の皆様に感謝申し上げます。

社会に求められる薬剤師としての力

- **冷静さ・しなやかさ**
 - 患者さんが最初に来る病院（ころころと状況が変わる）に必要ではないか
 - 薬局も必要でもあるのではないか。（例：イソジン）
 - 患者さんの様子を把握しながら説明を加えることが必要
- **患者さんの健康・生活面の把握**
 - 吐瀉の判断力が必要。
 - 実際どこで得られるのか→聞いてみないとわからないことかもしれない（経験）
- **コミュニケーション能力（話し方等。对患者だけでなく）**
 - 人間関係の構築。「待っているだけでなく「顔を見せに行く薬剤師」
 - こちらから思うだけでなく「こういうことをしてほしい」と伝えることも大事
 - 对患者は共感の姿勢が大事だが医療者には理論立てて説明することが大切
- **医療面だけでなく周りの医療従事者などの精神面のケア**
 - 良い職場関係を構築できれば良い医療を提供できることにもつながる
 - 各医療者の中の架け橋のような存在（チーム医療）
 - 様々な場面に薬剤師は食い込んでいけるのではないか
 - ミスが起こった時の対応。後輩育成の面において叱りすぎる。感情的にならず立ち位置を考えて発言する。
- **非薬学的情報と薬学的情報の架け橋**
 - 最近のイソジン事例やアフターピルなど薬に関係する知識
 - +α情報を付加する。（例：予防には手洗いが大事です等）

セッション1 IIグループ D班

セッション1では「社会に求められる薬剤師としての力」というテーマのもと、1グループ4人で討論を行い、意見を出し合った。討論の内容について以下にまとめた。

「社会に求められる薬剤師としての力」

①気軽に相談できる力

- ・信頼につながるコミュニケーション能力
- ・雰囲気や態度のやさしさ、相手をリスペクトする
- ・他職種と患者さんの架け橋になることが出来る

②必要なところに必要な情報を提供できる力

- ・専門性を生かした、情報収集能力・判断（EBM）
- ・広報能力（生活習慣病等の地域差を考慮し、地域住民と同じ目線に立つ）
- ・個人差を考えられる力（情報発信の差別化）

→早く薬が欲しい人、しっかり説明してほしい人を見極める、察する力

2D班では主に2つの視点から、求められる薬剤師像が挙げられた。1つ目は、機械化が進む中で、人にしかできない、コミュニケーションや空気を読む力がますます求められるという意見であった。2つ目は、チーム医療に貢献し、他職種連携を行うためにも専門性を高め、正確な情報を提供する能力が必要であるという意見であった。メンバーそれぞれの就職先によって目指す薬剤師像が異なるため、様々な意見が出て、新たな発見をすることが出来た。

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

- 気軽に相談できる
- 必要なところに必要な情報を

6

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

- 気軽に相談できる
- コミュニケーション能力
…信頼につながる
 - やさしさ…ただしさだけじゃない!
→雰囲気、態度
 - かかりつけ薬剤師を目指して

7

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

必要なところに必要な情報を

- 情報収集能力、判断(EBM)
専門性つかえる
- 広報
地域差(生活習慣病etc)
→地域ごとに必要な話をかみ砕いて
…同じ目線(意識する)

8

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

必要なところに必要な情報を

- 個人差を考える
情報発信先の差別化
(赤ちゃん、若者、高齢者etc)
…早く薬ほしい、しっかり説明ほしい
→察する力、状況対応能力

9

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

- 専門性…感染症対策、情報収集
- 広報する能力
- ただしさ、やさしさ
- **他職種**と患者さんとの懸け橋
- コミュニケーションが一番大切
…リスペクト

10

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

- 機械化されていく中で、方針を決める
ために
- 他職種との連携
- 薬のことを聞かれたら対応する
- ICT…病棟巡回で
- 安全管理
- それぞれの目線から情報共有

11

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

以下に能動的に動くか

- モデルケースを探す
- 救急：できる仕事を探す(考える)→広がる チーム医療など盛り上がる

12

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

アンサンブルシンテシオをみて

- あそこまで能動的に動けるか

13

20グループ
社会に求められる薬剤師としての力

患者さんが求めていること

- 患者さんに近い→相談受付、情報発信
小児とかありがたい？
 - 情報発信先の差別化(赤ちゃん若者高齢者etc)
- 早く薬ほしい、しっかり説明ほしい
→察する力、状況対応能力
- 地域差

14

セッション1 IIIグループ A班

セッション1「社会に求められる薬剤師としての力」について

このセッションではまず、それぞれが思うことについて考えをあげていった。

内容は以下の通りである

- n 患者さんによりそった治療
- n 冷静さを持った薬剤師、今やることを判断できる
- n 責任感をもつ
- n チーム医療（NST など）ものを言える
- n 自己研鑽をし続ける
- n 基礎的な内容（物化生など）を応用ができる
- n 患者さんとの常識をすり合わせる（コロナでの消毒についてなど）
- n トリアージの知識
- n 検査値、バイタルなどのデータを活用する能力
- n MMWIN(宮城県)：地域ごとに電子カルテを共有するツールの活用
- n 普段から会話をして連携を取れる基盤を作っておく
- n 様々な領域における対等な周辺知識
- n お互いの職種について知る（患者さんに対する視点が違う）
- n 噛み砕いて難しい知識を伝える
- n ネットでの服薬指導 伝えるのが難しいがその上で伝えられる表現力
- n 今のツール（zoom や LINE）をうまく使って服薬指導できる能力
- n 自宅の状況や患者背景もオンラインならわかりやすい可能性がある←高齢者などネットが扱いにくい人への対応が必要
- n 観察する能力
- n 家族もケアする
- n 横のつながり（医療従事者同士）教科
- n 普段から会話をして連携を取れる基盤を作っておく
- n 様々な領域における対等な周辺知識
- n お互いの職種について知る、患者さんに対する視点が違う
- n 看護師の着目点を知る（家族構成、今後の対応などに注目）

様々な意見を交わした後に、発表に向けて大きく2つに分類して話をまとめた。

まずは、現在求められている薬剤師としての力についてである。やはり、薬剤師として働く上で必ず必要なものが挙げられ、全員の意見はほぼ同じであった。ここでは以下のようなまとめになった。

- n 患者さんによりそった治療
- n 冷静さを持った薬剤師、今やることを判断できる
- n 責任感をもつ

- n チーム医療（NST など）ものを言える
- n 自己研鑽をし続ける

そして次に、今後求められる薬剤師としての力についてである。ここではさらに大きく2つについて考えた。

まずは、未病対策についてである。薬剤師の役割として、対物業務から対人業務へと移行しているが、今後さらに広がるものとして未病対策が挙げられた。薬を処方するだけでなく、その病気を発症する前に防ぐところにも薬剤師が介入できれば良いのではないかという意見がでた。ここでは以下のようなまとめになった。

- n 基礎的な内容(物化生など)を応用ができる
- n 患者さんとの常識をすり合わせる（コロナでの消毒についてなど）
- n トリアージの知識
- n 検査値、バイタルなどのデータを活用する能力

次に、地域医療についてである。今後在宅医療が広がるにつれ、薬剤師が活躍していく場になるのではないかという考えがでた。さらに、宮城県で実際使用されている地域医療の例を紹介してもらった。それは MMWIN という地域ごとに電子カルテを共有し活用していくシステムについてであり、初めて知る人が多かった。今後このような情報の共有が広がるとさらに充実した地域医療ができるのではないかと考えた。ここでは以下のようなまとめになった。

- n MMWIN(宮城県)：地域ごとに電子カルテを共有するツールの活用
- n 普段から会話をして連携を取れる基盤を作っておく
- n 様々な領域における対等な周辺知識
- n お互いの職種について知る（患者さんに対する視点が違う）

3A7IL-7

社会に求められる薬剤師としての力

現在求められている薬剤師としての力

- 患者さんにより適った治療
- 冷静さを持った薬剤師、今やることを判断できる
- 責任感をもつ
- チーム医療 (NSTなど)ものを言える
- 自己研鑽をし続ける

1

3A7IL-7

社会に求められる薬剤師としての力

今後求められる薬剤師(未病対策)

- 基礎的な内容(物化生など)を応用ができる
- 患者さんとの常識をすり合わせる (コロナでの消毒についてなど)
- トリアージの知識
- 検査値、バイタルなどのデータを活用する能力

2

3A7IL-7

社会に求められる薬剤師としての力

今後求められる薬剤師(地域医療)

- MMWIN(宮城県)：地域ごとに電子カルテを共有するツール
- 普段から会話をして連携を取れる基盤を作っておく
- 様々な領域における対等な周辺知識
- お互いの職種について知る (患者さんに対する視点が違う)

3

3A7IL-7

MMWIN(エムエムウィン)について

サービス概要

宮城県内で多数の施設が参加しています

The diagram shows a central box labeled 'MMWIN みんなのみやぎネット' with a map of Miyagi Prefecture. To the left is the '情報提供施設' (Information Provision Facility) and to the right is the '情報閲覧施設' (Information Viewing Facility). Both facilities include icons for Hospital, Clinic, Home Care, and Home Care Facility. The central box lists '開示できる情報' (Information that can be disclosed) including: 病歴 (Medical History), 検査情報 (Test Information), 検査結果 (Test Results), 処方 (Prescription), 処方情報 (Prescription Information), 入院特約 (Hospital Admission Special Agreement), etc.

※同意した患者さんの情報のみで、施設ごとに異なります
※レントゲン画像やMRI画像、CT画像等の診断システムは、現在検討中です

MMWIN みんなのみやぎネット <http://mmwin.or.jp/html/people/index.html> より引用

4

セッション1 IIIグループ B班

話し合いは、まずそれぞれのメンバーがざっくばらんに必要だと思う力を列挙した。その後、ある程度出そろった段階で、関連する力をまとめたり、深掘りをしたりすることで以下のようにまとめた。

(知識)

医薬品についてはもちろん、未病の段階から地域の人々の健康増進に寄与するため、健康全般についての基本的知識を有する。

(柔軟性)

自身の有する知識を、臨床に応用するための柔軟性を有する。

(コミュニケーション能力)

患者・他職種と円滑な情報交換を行う為のコミュニケーション能力を有する。

(科学的根拠に基づく情報収集・発信力)

人々が様々な情報に自らアクセスできる時代において、科学者としての責任をもって正しい情報を取捨選択し、それを適切に発信できる力を有する。

(分析力)

患者の身体状況や薬歴、医薬品の情報などを適切に分析する力を有する。

(判断力)

分析した情報を踏まえて、適切な対応を行う判断力を有する。

特に、疑義照会の可否、代替案の提案、副作用の原因の特定、OTC薬の提案、受診勧奨などを薬剤師が責任をもって行うことが必要とされる。

(探求心)

目の前の患者だけでなく、世界中の患者により良い医療を貢献しようとする探求心に基づき、アンメットメディカルニーズに対する研究を立案し、自らエビデンスを構築する力を有する。

(向上心・好奇心)

日々進歩する医療に対応するために、様々なことに興味・関心をもち、自ら研鑽を続ける向上心を有する。ひいては専門認定薬剤師取得などに繋げていく。

社会に求められる薬剤師としての力

- **知識**
 - ・薬について
 - ・健康について
- **柔軟性**
 - ・患者さんに合わせた服薬指導
- **コミュニケーション力**
 - ・多職種間での連携
 - ・患者さんに対して
- **科学的根拠に基づく情報収集・発信力**
 - ・例) ヨードチンキ、消毒

5

- **分析力**
 - ・患者さんの身体状況、薬歴
 - ・薬のデータ
- **判断力**
 - ・疑義照会の可否、代替案
 - ・副作用の原因
 - ・OTC薬の提案
 - ・受診勧奨
- **探求心**
 - ・エビデンスを構築する
- **向上心・好奇心**
 - ・様々なことに興味を持つ
 - ・専門認定薬剤師

6

セッション1 IIIグループ C班

セッション1では、「社会に求められている薬剤師としての力」について自分の考えを共有し、大学生活を中心とした各々の経験に基づき討論を行った。

最初のセッションということで皆少しだけ緊張しており、意見とそれにまつわるエピソードを1人ずつ話していくという形で討論が進んだ。当班では、高度な専門的技術を磨くことに焦点を当てる意見はほとんど出なかった。そして、ある意味アンサンブルシンデレラのように「患者や一緒に働く医療従事者に向き合う・寄り添う姿勢を大事にしたい」「社会人としての常識を身につけて行動できる」といった点が共通しており、以下のようなプロダクトとしてまとめることが出来た。

- ・薬の知識だけではなく、患者さんのライフスタイル(食事や運動面など)に合わせたサポートが出来る
- ・患者さんに寄り添い、精神面のサポートが出来る
- ・患者さんだけではなく、他のスタッフと協力したり気を配ることが出来る
- ・患者さんや他のスタッフのニーズに合わせて対応できる

社会に求められる薬剤師としての力

- 薬の知識だけではなく、患者さんのライフスタイル（食事や運動面など）に合わせたサポートが出来る
- 患者さんに寄り添い、精神面のサポートが出来る
- 患者さんだけではなく、他のスタッフと協力したり、気を配ることが出来る
- 患者さんや他のスタッフのニーズに合わせて対応できる

セッション1 IIIグループ D班

セッション1 社会に求められる薬剤師としての力

まずはみんなで意見を出し合っていた。その後に、具体例を出していたり、似ている意見をまとめていたりした。

主に5年次の実務実習を経ての意見が多かったように感じた。

- ・ 指示待ち×→自ら動く力（自分で考える力）
例）患者さんと実際に会う
- ・ 信頼を得る
- ・ コミュニケーション能力
→何気ない会話が治療のヒントに
- ・ 発信力
例）D I ニュース、薬剤師ができることの発信（フィジカルアセスメント等）
- ・ 計画力
- ・ 心のケアができる（告知された直後に薬局に来る患者さんもいる）
- ・ 根拠を出すことができる
→添付文書をしっかりと確認
- ・ 患者さんを理解しようとする力
- ・ 先を見る力
→医師が何を考えているか、何をしたがっているか
- ・ 情報をピックアップする力

電子カルテを駆使する力

- ・ 手の器用さ
例）ケモ室での調剤
- ・ 正確さ
→人の目で確認する需要さ
- ・ 批判して疑ってかかる
- ・ 震災の時は、アナログでやらなくてはならない
→基礎をしっかり（機械に頼らない方法身に付けておく）

社会に求められる薬剤師としての力

- 手の器用さ
例)ケモ室での調剤のはやさ
- 正確さ⇒人の目で確認する重要性!
- 機械に頼らない調剤・情報収集方法を知っている

8

社会に求められる薬剤師としての力

- 指示待ち×⇒自ら動く・考える力
例)患者さんと実際に会う
- コミュニケーション能力
★何気ない会話が治療のヒントに!
- 発信力
例)DIニュース(薬剤部が医療従事者に向けて情報を発信)
薬剤師が出来ることの発信(フィジカルアセスメント等)
- 計画力
例)処方変更
- 根拠を出すことができる
⇒添付文書等をしっかりと確認
- 心のケアができる
- 患者さんを理解しようとする力
- 患者さんの大切な情報をピックアップして、医師等が次にどんな考えを持っているのか考える力
- 電子カルテを駆使する能力

➡ 信頼を得る

9